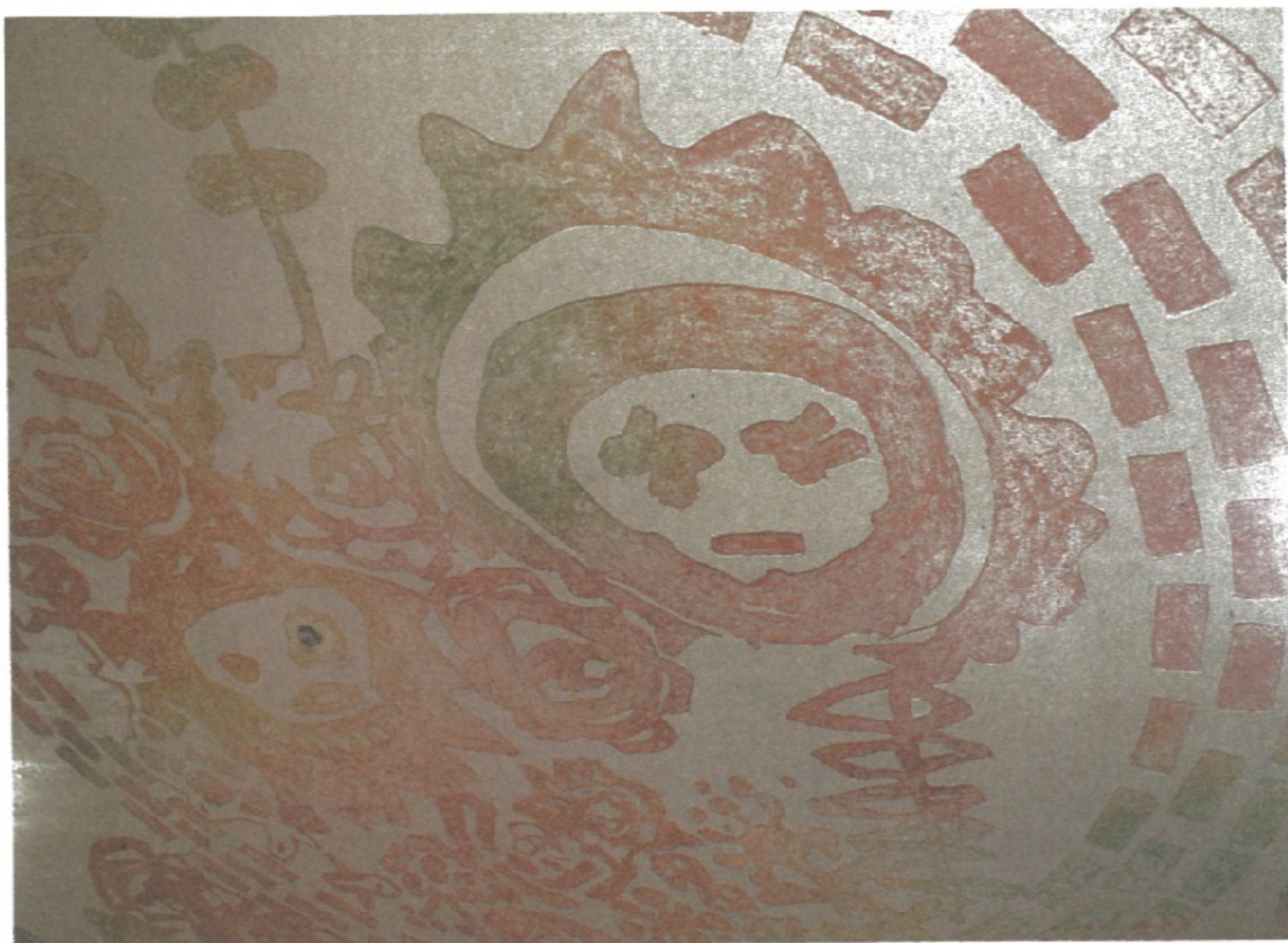


佐伯・福祉施設「ケアタウンながと」

市民と描く巨大壁画

原画、制作作業に延べ3000人

佐伯市の長門記念病院が開設する福祉施設「ケアタウンながと」の天井や壁に花をテーマにした巨大なフレスコ画が描かれた。市出身の壁画家佐倉康之さん(46)＝東京都＝のグループが制作に当たり、原画を描いたり、天井のしつこいを削る作業などに園児から大人まで延べ3000人以上の市民が協力した。壁画は1階廊下の天井部分(幅2.5メートル、長さ45メートル)と壁(高さ約3メートル、幅約2.5メートル)にあり、30日午前10時から施設の内覧会で披露する。



④花畑が天井いっぱいに出現＝佐伯市のケアタウンながと⑤壁画と同じサイズの紙に花の絵を描く園児たち＝佐伯市の大日保育園



壁画のテーマは病院を運営する特定医療法人の長門和子会長(69)のアイデアで「お花畑のトンネル」と決めた。佐倉さんにフレスコ画の制作を依頼し、2月末からプロジェクトは本格的に動きだした。利用者らに子どもたちの元気を伝えようと、原画は市内三つの保育園・幼稚園の園児が担当、壁画と同じサイズの紙に花の絵を描いてもらった。その後、天井や壁に転写するため、原画

色彩柔らかか 花畑が出現

の線に沿って小さな穴を開ける作業などをした。しつこい削りは23日に実施、市民約120人が参加した。色を付けた天井の上に業者がしつこいを塗布。参加者はその上に線に沿って穴を開けた原画を貼り、チョークの粉をはたいて転写した。原画を写した点線に沿ってしつこいを削り落とすと、淡い色調の下層が露出。壁や天井に次々と花が咲き、約6時間の作業で柔らかな色彩の花畑が出現した。

参加した赤松勝太郎さん(25)＝自営業＝は「天井を削る作業は大変だったが、花が一つできると達成感があった」。佐倉さんは「古里の多くの人に手伝ってもらいこれ以上のことはない。思いのこもったこの絵の下を通れば病気もよくなるのではと信じている」と話した。(佐藤由佳)



フレスコ画

西洋で古くから壁画に多く用いられる技法。生

乾きのしつこいに着色する。しつこいが乾くとともに色が定着するため退色しにくい。今回は着色したしつこいの層の上に、さらに1層しつこいを塗り、それを削り落とす「スツグラフイート(しつこい彫り)」の技法を用いた。